# 人権に関する作文・標語の入賞作品を紹介します！

**令和２年度は、新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から、例年開催されていた『人権フェスタ』が中止となりました。**

**しかし、人権に関する作文や標語については、町内小・中学校から出品をいただき、厳正な審査が行われ入賞作品が決まりましたので、ご紹介いたします。**

## 作文部門

最優秀賞

『優しい心でありがとう』

大崎小学校　５年

松元（まつもと）　志杏（しあん）さん

「〇〇のお店でクラスター発生。」

「△△市の病院で集団感染か。」

「発生源は、中国ウイルス研究所か。」

二〇二〇年、とてもこわいウイルスが世界中で流行している。そのウイルスの名前は、「ＣＯＶＩＤ－１９」通称、新型コロナウイルスである。初めて存在を知ったときには、ここまでこわいウイルスだとは思ってもいなかった。

三月に入ってすぐに、緊急事態宣言が出され学校が休みになった。その後も、外出が制限されたり、三密をさけたりする動きが日本中に広まった。私たちの鹿児島県は感染者ゼロがしばらく続いたが、今では多くの場所でクラスターが発生している。私の住む大崎町だって同じである。常に新型コロナウイルスに気を配りながらの生活が続いている。

そんな中、心が痛くなるニュースを見た。お医者さんや看護師さん、薬剤師さん、介護士さん、保健所で働く方々、スーパーの店員さんなど、コロナウイルスと最前線で戦い、私たちの体や生活を守ってくれる人たちに対して、心ない言葉を投げつける人たちがいるというものだった。

確かに、私だってコロナウイルスの情報は気になるし、感染者が行ったお店には行きたくないと感じてしまう。冒頭に書いた私が見たニュースの情報だって本当かどうか分からないのに信じてしまう自分がいる。それにしても頑張っている人を傷つけるのはひどい。そのニュースを見てとても悲しい気持ちになった。

なぜ頑張って戦っている人たちがひぼう中傷にあうのだろうか。私たちのために働いてくれていることに感謝の気持ちがないのだろうか。

九月、道徳の授業で「折れたタワー」という教材を学習した。その学習の中で、「広い心を持てば相手を許せそうだ。」「相手の置かれている立場や状況を考えれば許せそうだ。」という考えに私は気付くことができた。この考えを世界中の人々が持つことができたら、このようなひぼう中傷はなくなるのではないかと思う。

私は合言葉を考えた。それは、「優しい心でありがとう」である。みんな新しい生活様式や様々なおく測などでストレスを感じているらしい。普段と違う生活に私自身もきつくなることがある。でも、そんなときこそこの言葉を自分自身に言い聞かせる。今日も学校があってありがとう。みんな元気でありがとう。給食があってありがとう。こう言い聞かせているうちに何だか優しい心に包まれていく。

今、私にできることは、「優しい心でありがとう。」を広めることだ。私からスタートしたこの言葉が世界中に広まって、頑張っている人への心の支援になればうれしい。